

ESD-J 会員のみなさま

今年の9月22～23日にかけて、ニューヨークの国連本部で「国連未来のサミット：より良い明日に向けた多国間の解決策 ([Summit of the Future : Multilateral Solutions for a Better Tomorrow](#))」が開かれます。

開催日程：2024年9月22～23日

開催場所：NY国連本部

このサミットは、より良い現在を実現し、未来を守るための新たな国際的合意を形成するために、世界の指導者が一堂に会するハイレベルのイベントです。このサミットは、損なわれた信頼を修復し、国際協力が現在の課題だけでなく、近年浮上した課題、あるいはまだその先にあるかもしれない課題にも効果的に取り組むことができることを示す瞬間でもあります。

国連憲章に始まり、世界人権宣言、2030アジェンダ、パリ協定、アジスアベバ行動アジェンダなど、私たちは既に多くの既存の協定や公約という形で「What」を手にかけています。国連未来のサミットでは、「How」、つまり、上記のような願いや目標を実現するために、私たちはどのように協力すればよいのか、未来の課題に備えつつ、現在のニーズをよりよく満たすにはどうすればいいのかを議論します。

未来のサミットの成果物として、「未来に向けた協定」が検討されています。その[ゼロドラフト](#)が公開されたので、お知らせします。

【未来のための協定に向けて】

サミットの目的は2つあります。既存の国際公約を達成するための努力を加速させることと、新たな課題や機会に対応するための具体的な措置を講じることです。これは、「未来のための協定 (Pact for the Future)」と呼ばれる行動志向の成果文書を通じて達成されます。この協定は、2024年9月に開催されるサミットに先立ち、またサミット期間中に交渉され、各国によって承認されます。その結果、全人類と将来の世代のために、

現在および将来直面する課題に対処するためのより良い準備が整った世界、そして国際システムが実現すると期待されます。

【国連未来のサミットが重要な理由】

世界は、私たちがすでに設定した目標を達成するための軌道に乗っていません。また、新たな課題や機会に対して効果的に立ち上がることもできていません。

- 発展のスピードと複雑さは、私たちの協力と対処のシステムを凌駕しています。
- 進歩の恩恵と機会は不均等に広がり、大多数の人々が取り残されています。
- リスクや脅威もまた不均等に感じられ、最も脆弱な人々に不釣り合いな影響を及ぼしています。
- 極度の貧困と飢餓は増加の一途をたどっています。
- 世界的な汚染物質の排出量は人類史上最高水準にあり、その結果として移住しなければいけない人の数も増加しています。
- 気候、紛争、食糧安全保障、大量破壊兵器、パンデミック、健康危機などの脅威や、新技術に伴うリスクは増大しています。

よりシンプルで緩やかな時代に設計された多国間ガバナンスは、今日の複雑で相互接続が進み、急速に変化する世界には適していません。このサミットは、私たち自身をより良い道筋へと導く機会となります。

【未来のサミットの起源】

未来のサミットの提案は、2021年に国連事務総長が発表した「[Our Common Agenda](#)」報告書に始まりました。この報告書は、現在および将来の課題によりよく対応するためのアイデアを求める加盟国からの呼びかけに対する国連事務総長の回答でした。

この報告書は、あらゆるレベル、すなわち国民間、国家間、世代間における信頼と連帯の刷新を求めました。そして、政治、経済、社会システムを根

本的に見直し、より公平で効果的な社会システムをすべての人に提供できるようにするよう訴えました。また、必要な最も重要な改善点について合意する決定的な場として、未来のサミットを開催し、多国間システムを刷新することを提言しました。

加盟国は、2024年9月にサミットを開催することに合意しました。加盟国はまた、サミットが成果文書、すなわち「未来のための協定」を採択することにも合意しました。そして、以下の通り、サミットと協定の包括的な目的を明確にしています。

- ・ 国連憲章を再確認する、
- ・ 多国間主義を再活性化する、
- ・ 既存の公約の実施を後押しする、
- ・ 新たな課題に対する解決策に合意し、
- ・ 信頼を回復する。

[未来のサミットによる SDGs 達成への貢献]

持続可能な開発目標は、大きく軌道から外れていません。

未来のサミットは、持続可能な開発のための2030アジェンダの実施がより容易に達成できるような状況を作り出します。

それは、2023年のSDGsサミットの成果を基礎とすることで実現します。また、私たちが共に問題を解決することを可能にする国際協力の改善にもつながるでしょう。

私たちは、少数の人々だけでなく、すべての人々の利益のために新たな機会を活用し、リスクをより効果的に管理することができるようになります。国連事務総長が「未来のサミット」での検討のために提示したあらゆる提案は、持続可能な開発目標の達成に実証可能な影響を与えるものです。

[未来のための協定 ゼロドラフト]

サミットの共同進行役を務めるドイツとナミビアは、2024年1月26日に「未来のための協定」のゼロドラフトを発表しました。このドラフトは、今年の政府間協議の出発点となるもので、決議76/307に従い、野心的で簡潔、かつ行動指向の「未来のための協定」を採択することを最終目的としています。

[ゼロドラフト](#)

共同進行役からの手紙

[加盟国への手紙](#)

[メジャーグループ、その他のステークホルダー、市民社会への手紙](#)

未来のための協定のゼロドラフトは、148パラグラフで構成されています。

- ・ 柱書（パラ1～18）
- ・ 持続可能な開発と回八のための資金提供（パラ19～45）
- ・ 国際的な平和と安全保障（パラ46～90）
- ・ 科学、技術、技術革新とデジタル分野の協力（パラ91～102）
- ・ ユースと将来世代（パラ103～115）
- ・ グローバル・ガバナンスの変革（パラ116～148）

未来のための協定の概要は、[国連広報センターのウェブサイト](#)からダウンロードできます。

ただし、教育に関しては、国連広報センターが示す概要と異なり、パラ28で他の主要な国際会議と並べて2022年の「教育の変革サミット」が言及されている以外は、ゼロドラフトではほとんど触れていません。

[未来のサミットへの多様なステークホルダーの参加・貢献]

国連事務総長は、「Our Common Agenda」にうたわれている、よりネットワーク化された包括的な多国間主義というビジョンに沿って、社会のあらゆる分野から多様なステークホルダーが参加することの重要性を強調しています。未来のサミットの準備と成功には、こうしたステークホルダーの声が不可欠です。彼らの豊富な専門知識を活用し、そのプラットフォームを活用することで、私たちはより多くの情報に基づいた政策決定を支援し、サミットの影響力を増幅させ、今日と明日の課題によりよく取り組むことができます。

[未来のサミットの準備プロセス]

国連総会の議長は、未来のサミットの政府間準備プロセスの共同進行役として、ドイツとナミビア

を任命しました。決定書 77/568 および方法決議 (A/RES/76/307) に明記された約束に則り、共同進行役は国連の支援の下、市民社会およびその他のステークホルダーの関与に関する計画の概要をまとめました。この関与は、政府間協議を補完し、サミットの準備プロセスの様々な段階で多様な声や視点が貢献できるようにすることを目的としています。

1 ステークホルダー協議：2024年2月21日、バーチャル協議

- メジャーグループその他のステークホルダー (MGoS) 及び市民社会の代表による「未来のための協定」ゼロ・ドラフトへのフィードバック：この協議の目的は、MGoS および市民社会の代表者に、「未来のための協定」のゼロ・ドラフトに対する意見を交換する機会を提供することです。
- 2024年1月26日付の共同進行役からの書簡、バーチャル協議への招待状およびゼロ・ドラフトへの意見書：未来サミット準備プロセス、未来協定ゼロドラフトのプレゼンテーション

1 2023年12月13日：バーチャル協議

- 参加者がサミットへの期待を共有し、「未来の協定」ゼロ・ドラフトへの具体的な提案を行う機会を提供しました。

【未来協定ゼロ・ドラフトへのフィードバック】

未来サミットの共同ファシリテーターであるドイツとナミビアは、MGoS、その他の市民社会ネットワーク及び組織、NGO、民間セクター、学界に対し、1月26日に発表された「未来のための協定」のゼロ・ドラフトに対するフィードバックを提供するよう、心から呼びかけています。

- 2024年1月26日付の共同進行役からの書簡、バーチャル協議への招待状およびゼロ・ドラフトへの意見書：提出期限 2024年2月12日 (既に終了)

1 国連市民社会会議：5月9～11日、ケニア・ナ

イロビで開催

- 国連市民社会会議は、2024年5月9～11日にケニアのナイロビで開催される予定で、未来のサミットに焦点を当てたものになる予定です。同会議は、国連グローバル・コミュニケーション部が中心的なステークホルダーの企画グループと連携して主催されます。
- 会議の討議と成果は、サミットの成果である「未来のための協定」に向けて取り組む加盟国に対する貴重な貢献となります。
- 国連市民社会会議の最新情報については、国連市民社会会議の[ウェブサイト](#)をご覧ください。

1 地域・国レベルでの国連の支援活動

- 常駐コーディネーター、国別チーム、国連情報センターを含む国連システムは、実現可能かつ適切な場合には、未来のサミットに関する認識を高め、国や地域の利害関係者の関与を促進する活動にも従事する。
- 国連地域委員会が主催する持続可能な開発に関する2024年地域フォーラムは、「未来のための協定」に関するステークホルダーとのさらなる関与のためのプラットフォームとなります。地域フォーラムは、2024年2月から4月にかけて、タイのバンコク (アジア太平洋経済社会委員会)、レバノンのベイルート (西アジア経済社会委員会)、スイスのジュネーブ (欧州経済委員会)、チリのサンティアゴ (ラテンアメリカ・カリブ海経済委員会)、エチオピアのアディスアベバ (アフリカ経済委員会) で開催されます。

さて、2月21日に開催されたステークホルダー・コンサルテーションを視聴しました。日本時間の2月22日午前零時から3時間余りにわたる会議で、最初は国連メジャーグループから始まり、様々な団体から「未来に向けた協定」に対する意見が述べられました。

ところどころで自らのステークホルダーグループの主張をより明確に記載してほしいとの意見がありました。ゼロドラフトの基本構造を変えるようにとの意見はありませんでした。ゼロドラフト

は以下の構成であり、必ずしもステークホルダーごとのトピックにはなっていませんが、その点は了承されたようです。

- ・ 柱書（パラ 1～18）
- ・ 持続可能な開発と回八のための資金提供（パラ 19～45）
- ・ 国際的な平和と安全保障（パラ 46～90）
- ・ 科学、技術、技術革新とデジタル分野の協力（パラ 91～102）
- ・ ユースと将来世代（パラ 103～115）
- ・ グローバル・ガバナンスの変革（パラ 116～148）

多くの団体から実に様々な意見が述べられました。私の印象では、最も強調されたのは **human rights** と **equity** だったように思います。gender equity も多くの団体から指摘されました。また、ユースと将来世代についても多くの団体により強調されましたが、ユースの中にも多様な意見があることを認識してほしいとの意見が複数の団体から寄せられたことが印象的でした。他方で、全ての世代に配慮すべきであり、高齢者世代を忘れないようにとの指摘もありました。その他、興味深かった指摘は以下の通りです。

これらの意見は、網羅的でない点、また、既にゼロドラフトに記載されている事項が多々あることを前提として、さらにゼロドラフトに追加すべきとの意見であることにご留意ください。

- ・ 多国間主義（multilateralism）の強調
- ・ 平和と地域紛争の防止
- ・ ICT とデジタル・デバイド
- ・ 気候変動と自然災害の防止

- ・ 健康の確保と維持
- ・ これから生まれてくる（まだものを言えない）世代に対する配慮
- ・ 犯罪と汚職の撲滅
- ・ 宇宙の利用
- ・ 軍縮と核兵器の根絶
- ・ ローカルレベルの活動の重視と地方政府の役割
- ・ 社会保障

教育についても、あまり多くはありませんでしたが、若干の団体が強調しました。その他、組織的な問題として、国際的な資金メカニズムの是正、国連安全保障理事会の改組などの重要性も指摘されました。

ほとんどの団体が、議論の出発点としてゼロドラフトの内容を高く評価したように思われました。他方で、このコンサルテーション・プロセスが市民社会にとって十分な透明性とアカウンタビリティを確保していないとの指摘も一部の団体からありました。

3 時間余りにわたる長時間の会議でしたが、時間的制約から発言できなかった団体もあったようです。それらの団体の意見は、文書で提出され、考慮されることになるとの説明でした。

このコンサルテーション・プロセスの次の重要なステップは、5 月 9～11 日にケニア・ナイロビで開催される国連市民社会会議になります。また、「未来に向けた協定」の付属文書となる予定の「将来世代に関する宣言（the Declaration on Future Generations）」もまだドラフトされていません。

国際社会で今年採択される最も重要な文書の一つですので、引き続き注視していきたいと思えます。